

○再び国務大臣に就任

この一ヶ月は、大変でした。内閣改造で、文部科学大臣を退任、党の行政改革調査会長を引き受けて、公務員人件費の2割削減を中心とする行革法のまとめに入っていました。しかし、10日の発令で、再び内閣の中に入ることになり、防災、「新しい公共」、少子化対策、男女共同参画などの課題を担当する国務大臣に就任しました。それぞれの局面で、与えられた職責を全うすることだと思っています。どの分野も、この国の将来を見据えて、今、根幹を作るための大事な課題だと思うだけに、全力で一歩でも前に進めることです。

〈防災〉は、当面、日本海側の大雪、霧島火山などへの対応です。さらに、東日本大震災を徹底検証した上で、これから予想される東海、東南海地震、東京直下型地震や津波などへの喫緊の対応をはじめ、全国的な防災計画の全面見直しをしていきます。この国会から来年にかけて、出来るところから順次法律の改正や各省にかかる基準の見直し、予算措置をしていきます。

〈「新しい公共」〉では、すでに寄付税制改革や公益法人改革などの法律の整備が終わり、NPO や公益団体の活動をさらに活発にしていく応援方策を考える段階に入っています。

〈少子化対策〉では、保育所、幼稚園を一体化して、多様なニーズに応えられる弾力的なシステム(総合こども園)にするための「子ども・子育て新システム」法案の成立とその財源(消費税、社会保障と税の一体改革)を、この国会で成立させることです。

さらに、「男女共同参画」の課題と相まって、仕事と家庭の両立、出産・子育て・就労の希望がかなう社会の仕組みづくりを、お題目ではなく具体的に政策化していくことが大事だと思っています。こうした問題の議論、意思決定過程に女性が参加して自ら切り開いていくチャンスをこれまでも増して作っていきます。

その他、新型インフルエンザへの危機対応、定住外国人問題をはじめとする多文化共生施策、子どもや若者の育成・支援、青年の船や二国間の青年交流事業などの国際交流、PFI の推進等々、各省にまたがるプロジェクトを推進していくのが私の役割になるだけに、本当に沢山の課題を抱えることになりました。やりがいをもって、頑張ります。

○解散総選挙の可能性かかる国会

予算委員会が衆議院で始まっています。この国会は、税と社会保障改革を中心に、与野党がどのように決着をつけていくかが焦点になってきました。法案の国会提出前に与野党が話し合っ解決できればよかったです。話し合いに入れませんでした。次は、衆議院で裁決するまでに話し合いをもつこと、これが出来なければ、衆議院での裁決がギクシャクします。無理やり参議院に送り、与野党ねじれた中で参議院での話し合いは、お互いが我の張り合いになって、こう着状態が続く恐れがあります。さらに、予算関連で赤字国債発行のための公債特例法案も同じ形で採決できずに長引けば、危機感がピークに達します。国会の閉会間近になると、野党は毎年、多数を占める参議院で法案を通して欲しければ総理大臣の首を差し出すか、解散をしろ と言ってきました。与党がこれを受け入れてきたために、小泉政権後、自民党時代も含めて総理大臣が一年で交代してきました。鳩山さんが宇宙人だとか、菅さんが頼りないとか、小沢さんが全ての元凶だとか、マスコミはその時々話題を面白おかしく騒ぎ立てます。しかし、政権が短命で終わる原因の根本には、底流に衆参の「ねじれ」の構図があります。明日の政治、明日の国会では何が起こるか、最近では予想も出来ませんが、何とか今の状況を克服して多数派政権を作る手立てを見つけるべく頑張っていきます。

○地元で「税と社会保障」セミナー

2月25日(土)には、午前10時30分から鈴鹿の労働福祉会館、16時30分から四日市総合会館、18時30分から桑名のくわなメディアライブで「税と社会保障の一体改革を考える」をテーマに、民主党の政策セミナーを開きます。この分野を大臣として直接担当している岡田副総理自ら説明したいという企画です。ごぞってご参加ください。

防災大臣は、事が起これば、東京で陣頭指揮をとる役割も担っています。私が東京を離れて出張する時には、どういう事態にも対応できるように、あらかじめ自衛隊のヘリコプターなどにも待機態勢がしかれると説明がありました。地元に戻る機会がまた少なくなることが申し訳ないと思います。精一杯の頑張りをしていきたいと思っていますので、どうかよろしくお願ひします。